

躯体完成間近の最上階。梁の鉄筋を組むために、多くの技能者を確保する必要があった。



# GENBA INNOVATION

現場イノベーション

創意工夫に富む現場の取組みやマネジメントの最前線を追う!!

## 働きやすい環境こそが 現場に人材を呼び寄せる 地道に目指す「担い手確保」への道

(仮称)メゾン三田建替計画

### 工事概要

工事名 (仮称)メゾン三田建替計画  
工事場所 東京都港区三田2丁目8番20号  
事業主 メゾン三田建替組合  
事業協力者 三菱地所レジデンス株式会社  
旭化成不動産レジデンス株式会社  
建物最適管理株式会社  
設計・監理 株式会社熊谷組一級建築士事務所  
デザイン監修 アーキサイトメビウス株式会社  
施工 株式会社熊谷組首都圏支店  
工期 2018年8月～2021年5月  
建物用途 共同住宅111戸  
(地権者住戸57戸/分譲54戸)  
構造規模 RC造、地上23階/地下2階



現場を上空より眺める。(提供: 熊谷組)

少子高齢化や入職率低下により、数年以内に大幅に減少すると見られている建設技能者人口。その対策として、様々な取組みが進められているが、決め手を欠いているのが現状だ。そのようななか、建設の最前線を担う技能者に快適に働いてもらうことが課題解決の道になると信じて挑戦を続ける、現場所長の想いとは。

**働きやすい環境づくりを目指して**  
東京都港区で築50年のマンションを建て替えているこの現場。二〇一七年に旧マンションの解体を開始。二〇二〇年九月上旬の取材時には新築の躯体工事が間もなく終わろうとしていた。

(株)熊谷組・(仮称)メゾン三田建替計画の梅野晃作業所長は、立地による諸条件と、この「建替」という要素を強調する。

「まず、周辺の道幅が狭く大型車の乗り入れが難しいので、部材のPC化はかえってコストパフォーマンスがよくない。そして老朽化したマンションの建替ということでも、もともと住まいになっていた世帯の大部分が再度入居される一方、新た



株式会社熊谷組  
(仮称)メゾン三田建替計画  
作業所長  
梅野 晃 Akira Togano

に分譲する部屋もあり、その販売期間を考慮すると工期を短縮してもあまりメリットがない。それで、こういった高層マンションでは珍しいのですが、一部を除いて在来工法で建てることになりました」  
現場における作業削減と工期短縮のために柱や梁を工場製作するPC工法が近年の建築工事の主流だが、ここではその場で鉄筋・型枠を組み、コンクリートを打つ在来工法を採用。当然、現場の作業量やコス

トが増え、工期も延びることになる。「その代わり、スラブと外周のバルコニーはPC化しました。在来工法は、変則的な形状にもフレキシブルに対応できるし、PC工法よりコストダウンできる部分もあり、今後このような狭小地での建替工事のモデルケースになるかも知れませんね」

現場における作業が増えたことで、梅野所長はこれまで以上に働きやすさを重視した現場作りを心掛け、「三田50チャンネル」と題する五〇項目に及ぶ作業環境の改善に取り組んだ。

「私自身、同じデベロッパー(三菱地所レジデンス(株))と多くの案件を手掛けてきたなかで、ずっと一緒に働いてきた協力会社があって、彼

らとは長く信頼関係を築いているし、求められる品質もゼネコン職員以上に理解している。その協力会社の社長さんたちから「若い世代が建設業を好きになるような環境を整えてほしい」と頼まれました」

新たな入職者を募ることと同様、せつかく入ってくれた若手を業界に定着させることも重要だ。一昔前のいわゆる「3K」のような職場環境では、後継者問題の解決など望むべくもない。

「トイレ一つにしても、いまどきと式便所で汲み取り方式なんて使っていたら若い子は逃げ出しますよね。技術開発も大事ですが、働き手が働きやすい環境を作るのも我々ゼネコンの役割だと改めて思ったんです」



駐車場となる場所を活用したコミュニケーションスペース。ギターなどの楽器や卓球台、オセロや野球盤といったボードゲームなど娯楽設備があり、現場内のイベントでも活用されている。(提供：株熊谷組)



職長会の幹事クラスが使える「職長会幹事室」。モニターで現場の搬入状況などを監視でき、FAX・コピー・Wi-Fiも完備している。



大型スクリーンで映画などのDVDを観ることができる喫煙室、通称「Smoking Theater」。職員・技能者ともに初対面でも打ち解けられる雰囲気がある。



休憩所の机やロッカーは協力会社ごとに色分けし、腰壁やメッシュで簡単な仕切りも設置。細かい配慮が働きやすさの基本だ。







上／現場内に掲げられた職長会スローガンには、「建築」への限りない挑戦と、「EDO」の心意気が込められている。  
下／毎月開催される安全大会では月次安全表彰者を発表。受賞者は現場内に掲示される。

レベルで支えてきた藤本龍二副所長は、現場の仮設計画において元請と技能者の立場の違いを痛感するという。

「例えば仮設の階段をどこに設置するか。所長や私は一日二〜三回しか使いませんが、技能者の皆さんは休憩も含めると毎日最低八回は昇ったり降りたりするので、同じ階段でも使い勝手の重みが違う。『何でこんなところに作ったの?』と言われることもあって、元請側からすれば永遠のテーマ。でも、そういうことを喫煙所なんかで気兼ねなく言える空気があるのは

貴重だと思います」(藤本副所長)

「私と藤本は共通して、若い頃から『職方に育てられた』という意識を持っています。技能者の気持ちがあるから、彼らの身になって計画を立てることができると、できるだけ気分良く働いてもらいたい。そうすることでいい技能者が集まって、結果的に建物の品質向上につながると思うんです」(梅野所長)

一〇代から七〇代まで、年齢も経験も様々な人が同じ目標に向かって働ける業界は、他にない。梅野所長が考える建設業最大の魅力は、やはり「人」なのだ。



所長と技能者、立場を超えて何でも話し合える関係性が、良好な職場環境を生み出し、効率的な作業の元となる。

いい環境が人材を呼び  
いい人材が建物をつくる

着工前、現場の環境改善について協力会社一〇社に意見を聞いたところ、休憩所や喫煙所への要望が多かった。「三田50チャレンジ」にも、トイレ改善やコミュニケーションスペースの設置など、アメニティ関連の項目が目につく。

「休憩所や喫煙所って、みんなの交流の場でもありますよね。『他職同士仲良く』と口で言うより、そういう環境を用意すれば自然と横のつながりが生まれて効果的なんです」

休憩所は、カーテンやメッシュで仕切りを設けたり協力会社ごとにロッカーや机を色分けしたりしてプライバシーに配慮。一方、面識がない人と気まづくなりがちな喫煙



株式会社熊谷組  
(仮称)メゾン三田建替計画  
作業所副所長  
藤本 龍二 Ryuji Fujimoto

所では、DVDで映画を上映して会話のきっかけにするなど、コミュニケーションの場を提供することに腐心した。

「今回初めて設けたのが『職長会幹事室』。職長会の幹事クラスが使う部屋で、事務仕事や幹事同士の打ち合わせができます。我々熊谷組の職員がそこに入るのは、大体何かがあって職長会に怒られる時くらい(笑)」

躯体・設備・電気、それぞれの作業責任者が集まれば、ゼネコン職員を介さずとも仕事の調整もできていく。

梅野所長の「チャレンジ」を実務



梅野所長の新人時代から労苦を共にしてきた鈴木健二職長(写真右)。仮囲いの内外を互いに任せあえる、絶対的な相棒だ。中央は熊谷組・金子主任。

## 誰もが「働きたい」現場 「人が主役」を最大の魅力に

### Webサイト「WorkStyle Lab」で動く現場を見よう!!

建設業界の働き方改革を伝えるサイト「WorkStyle Lab」では、「現場イノベーション」と連動したコンテンツを随時掲載中です。取材先の更に詳しい取り組みやこぼれ話など、誌面に載せきれなかった内容を動画などで紹介します。所長さんや副所長さんなどの想いを生の声で、また実際の工事現場の様子を臨場感あふれる動画でぜひご覧ください。たくさんの方のアクセスお待ちしております。



WorkStyle Lab  
<https://www.nikkenren.com/2days/workstylelab/>